

2008 年(平成 20 年)度版

ごみゼロレポート

2007 年(平成 19 年)度に県が取り組んだこと



ゼロ吉ファミリー

「ごみゼロ社会実現プラン」について P 1

I 三重県のごみの現状 P 3

II 2007 年(平成 19 年)度の取組 P 5

ゼロ吉くんれぽお〜と P 17

2008 年(平成 20 年) 11 月

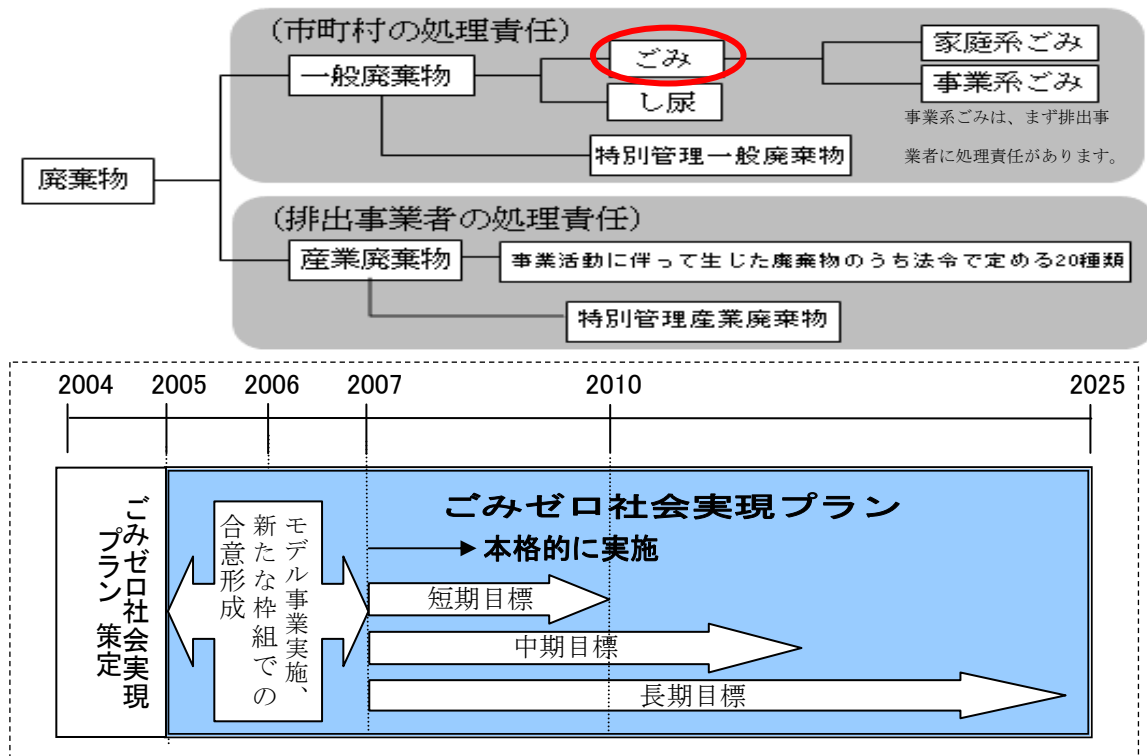
三 重 県

「ごみゼロ社会実現プラン」について

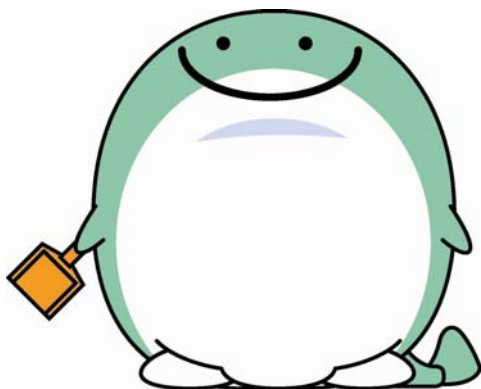
20年後のごみゼロ社会実現に向けて、多様な主体が協働していくための取組指針として、県民の皆さんの参画のもと、2005年（H17年）3月に策定しました。

「ごみゼロ社会」とは？：「ごみを出さない生活様式」や「ごみが出にくい事業活動」が定着し、ごみの発生・排出が極力抑制され、排出された不用物は最大限資源として有効利用される社会” のこととしています。

【ごみて？】 ごみゼロプランの対象とするごみは、家庭や事業所から出る一般廃棄物です。

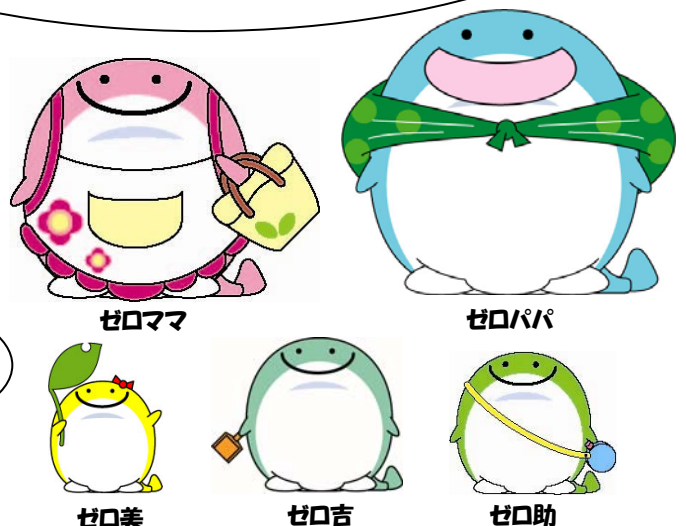


三重県ごみゼロキャラクター「ゼロ吉」ゼロ！



僕は、三重の豊かな森から生まれた森の妖精。
人間で言うと小学4年生くらいかな。
僕が大人になった時も自然豊かな三重県であって欲しいから、資源を大切にする暮らしをしているよ。
今は、ちょっと太めな体だけど、大人になった頃には、ダイエットしてスリムになるぞ〜。

ごみゼロ社会に向けた取組を一緒にお手伝いするゼロ〜 僕らを使ってくれる人は、県ごみゼロホームページ(裏表紙)から申し込んでほしいゼロ！！



ごみゼロ社会実現プランの推進について、進捗状況を的確に把握しマネジメントしていくための基準として、短期・中期を含めた数値目標を設定するとともに、県民や事業者、学識者等で組織される「ごみゼロプラン推進委員会」によって取組の検証・評価を行い、PDCA サイクルに基づくプラン全体の進行管理・マネジメントを行います。

(1)ごみの減量化

区分	指標名	数値目標		
		短期(2010年度)	中期(2015年度)	目標(2025年度)
①発生・排出抑制に関する目標	ごみ排出量削減率 (対2002年度実績)	家庭系ごみ6% 事業系ごみ5%	家庭系ごみ13% 事業系ごみ13%	家庭系ごみ30% 事業系ごみ30%
②資源の有効利用に関する目標	資源としての再利用率	21%	30%	50%
③ごみの適正処分に関する目標	ごみの最終処分量	81,000トン (対2002年度 約46%減)	76,000トン (対2002年度 約50%減)	0トン

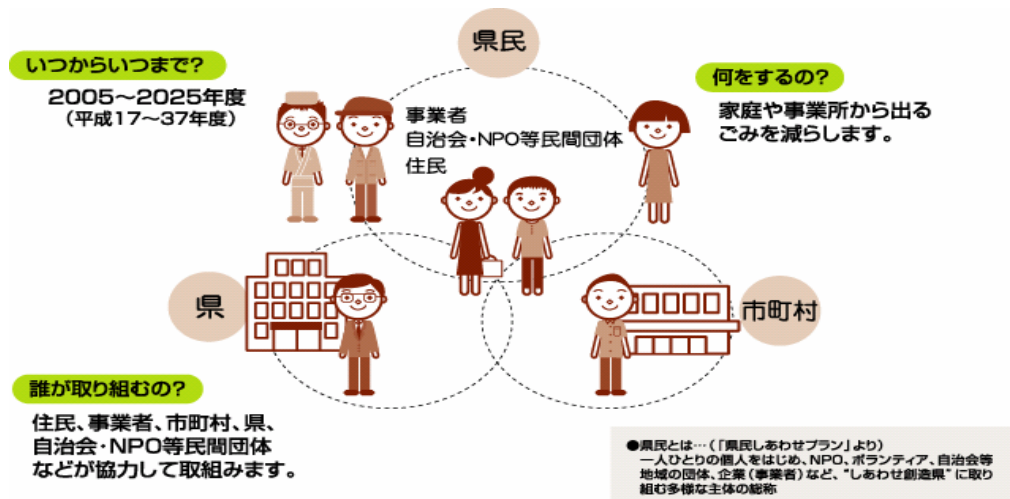
(2)多様な主体の参画・協働

指標名(H16現状値)	数値目標		
	短期(2010年度)	中期(2015年度)	目標(2025年度)
④ものを大切に長く使おうとする県民の率(58.2%)	80%	90%	100%
⑤環境に配慮した消費行動をとる県民の率(39.4%)	60%	90%	100%
⑥食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率(38.5%)	60%	90%	100%
⑦ごみゼロ社会実現プランの認知率(-)	90%	100%	100%

短期・中期の目標設定

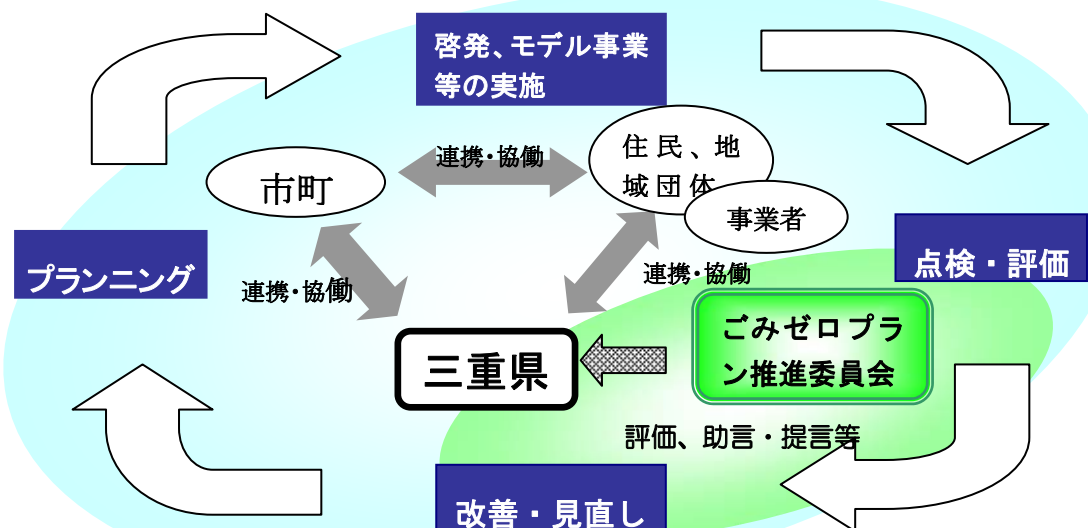
住民や事業者、行政、民間団体等がそれぞれの役割を認識したうえで、自主的にごみの減量化・再資源化に向けた取組を進めます。また、各主体の連携・協働を促進します。

推進体制のイメージ



県民、事業者、NPO 等団体、学識経験者、行政で構成される「ごみゼロプラン推進委員会」を設置し、プラン推進の取組を検証・評価し公表するなど、PDCA サイクルに基づくマネジメントを行います。

プラン推進のマネジメント

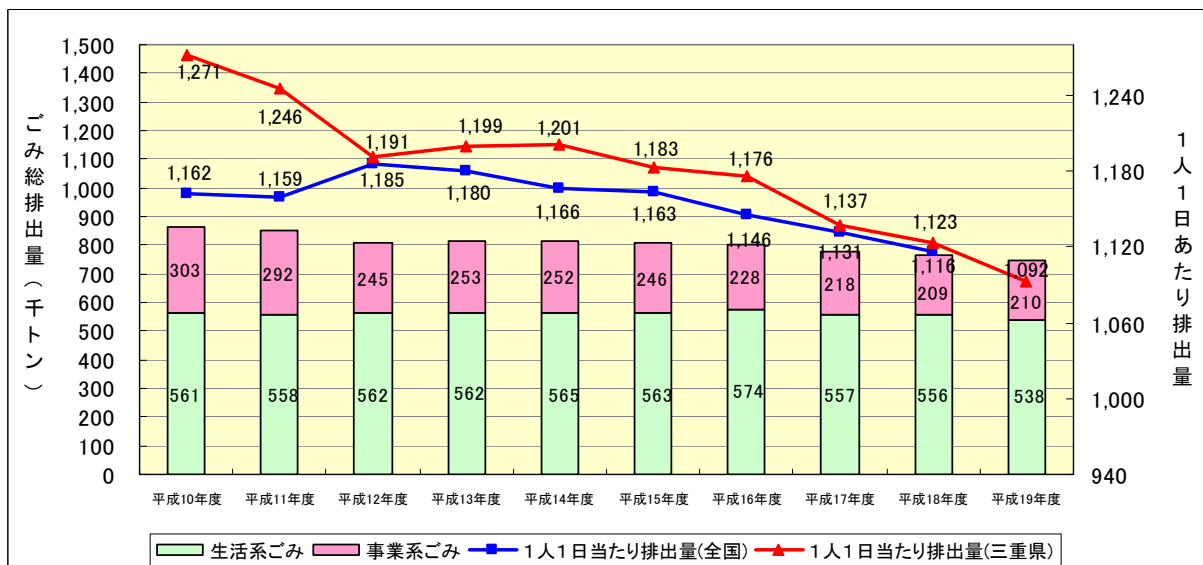


I 三重県のごみの現状

＜ごみの排出量＞

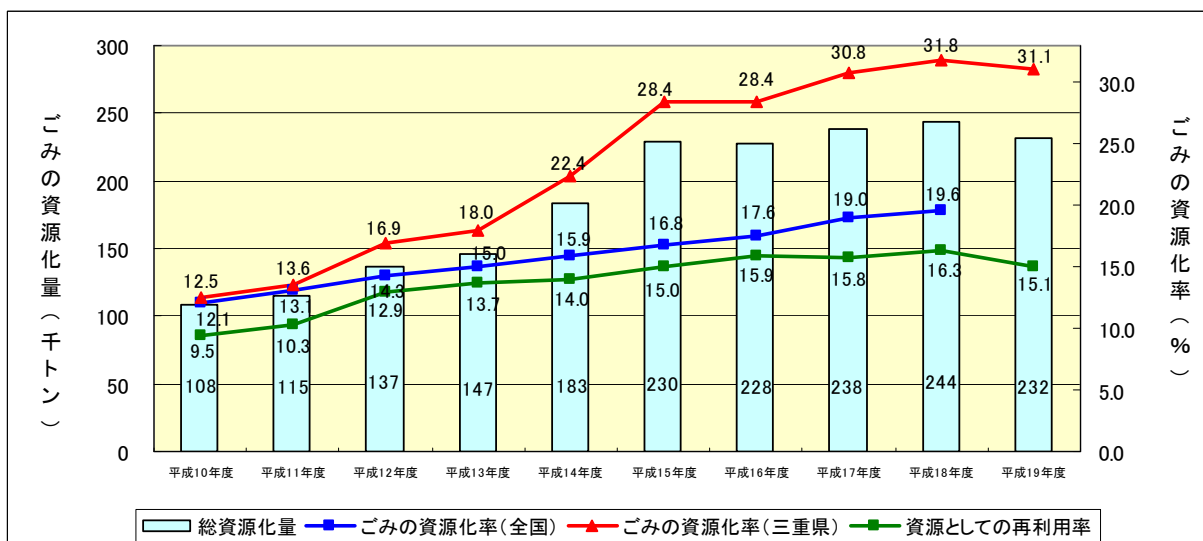
ごみの排出量について、2007年（平成19年）度の速報値及びここ数年の推移をみると、事業系ごみの減少傾向が続く一方で、家庭からでる生活系ごみも、19年度は前年度に比べ3%減少するなど、排出量全体でみると、16年度以降は減少傾向があらわれています。

また1人1日当たりごみ排出量でも、19年度速報値は、18年度に比べて、比較的大きく2.7%ほど減少しており、全国平均との差は縮まっています。



＜ごみの資源化率＞

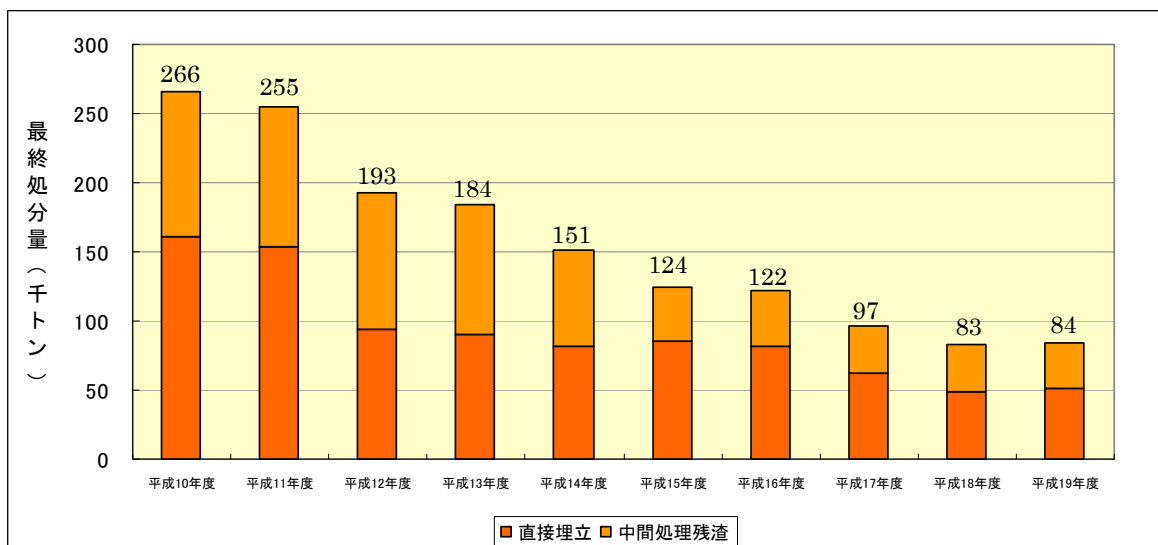
ごみの資源化率は、30%を超えて全国トップクラスとなっており、資源利用は順調に進展していますが、19年度はやや実績値が下がりました。



※プランの数値目標である「資源としての再利用率」には、再使用や再生利用をより重視する観点から、このグラフの「資源化率」には含んでいる、①「ごみ固形燃料（RDF）発電施設に供給するためにRDF化した量」、②「焼却施設で生じた焼却灰を熔融化施設でスラグ化した量」③「集団回収量」は含めていません。

＜最終処分量＞

最終埋立処分されるごみの量は、この 10 年間で 1 / 3 以下に、ここ 5 年間でみても約 2 / 3 にまで減少してきています。

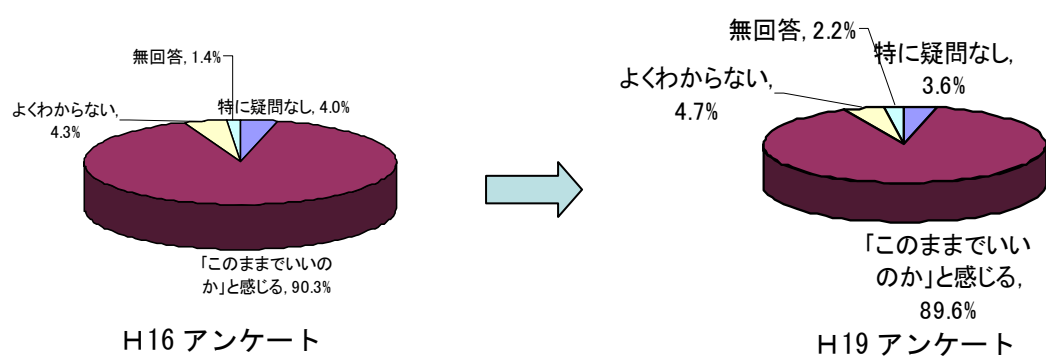


＜県民の意識と行動＞

県民のごみに関する意識をみると、今の使い捨て社会に対して大多数の人が疑問を感じながらも、実際に環境に配慮した行動をとる人の割合はまだまだ低く、意識と行動とが必ずしも結びついていない実態があります。平成 19 年 9 月の県民アンケートでは若干の改善傾向は見られますが、ほとんど変わらない状況です。

(「ごみゼロ社会」をめざす県民アンケート調査 H16.10、H19.9 実施結果より)

○使い捨て社会に対する疑問



○プラン数値目標（多様な主体の参画・協働）についての県民意識

	H19	H16	増減
ものを大切に長く使おうとする県民の率	58.4%	58.2%	+0.2%
環境に配慮した消費行動をとる県民の率	40.2%	39.4%	+0.8%
食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率	40.6%	38.5%	+2.1%
ごみゼロプランの認知率	45.5%	—	—

Ⅱ 2007年(平成19年)度の取組

〇ごみゼロ社会実現プラン推進モデル事業

「ごみゼロ社会実現プラン」のごみ減量化取組をより効果的に、県全体での展開につなげるために、市町が地域住民・事業者・団体等と協働して行う、他の市町・地域の参考となる実験的・先駆的なモデル事業3件に対して、費用を補助するなど支援しました。

伊勢市 レジ袋の削減(有料化の導入)検討事業

〇事業の目的と概要

さらなるレジ袋の削減をめざして、市民・事業者・市等で構成する「ええやんか！マイバッグ(レジ袋有料化)検討会」において、マイバッグ持参率 50% 以上実現のため、有料化を含む議論を進め、事業者との協定締結、市民への啓発を進めます。

〇事業の成果

- ・議論を通じて、参加者の意識が高まり、レジ袋有料化に向けた共通認識が形成されました。
- ・市民団体をはじめ、商店街・商工会等も含めた、地域全体のサポート体制のもと事前告知キャンペーンが実施され、市民の理解が促進されました。
- ・平成19年9月21日より、全国に先駆けて、市内全域のスーパー全店(7事業者・21店舗)における、レジ袋の有料化が一斉にスタートしました。
- ・混乱等もなく、スタート半年間(H19.9-H20.3)のマイバッグ持参(レジ袋辞退)率は、当初目標を大きく上回る90%前後で推移しています。

〇今後に向けた課題や取組

- ・マイバッグ持参(レジ袋辞退)率のアップ、参画事業者の拡大、近隣広域での取組の実現、を図るとともに、有料化によって生じる収益金の取扱いを検討する必要があります。
- ・市民啓発活動等を継続しつつ、コンビニエンスストアやドラッグストア等へも参画を働きかけます。



検討会の模様 ↑



協定式 ↑



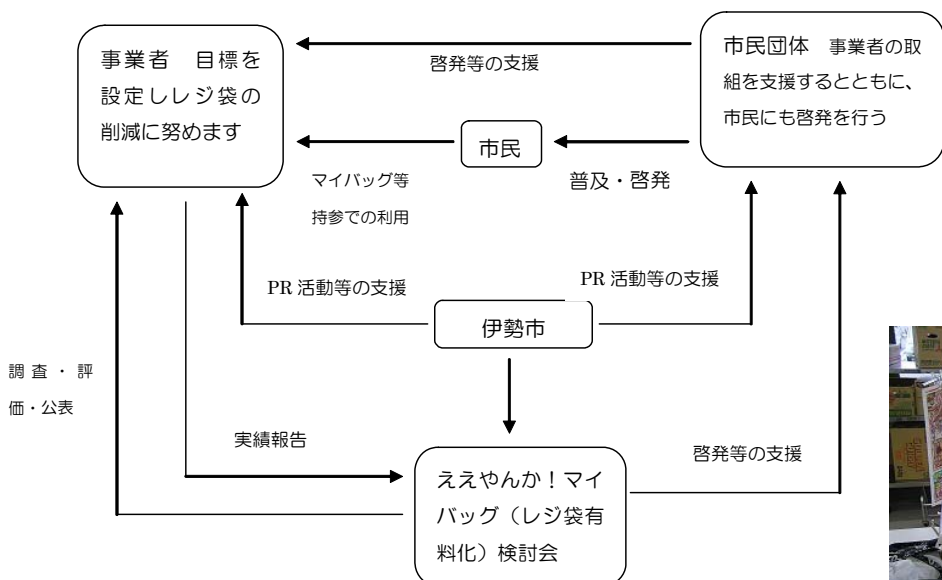
↑店頭掲示



キャンペーン ↑



←マイバッグで
お買い物



「生の声」～モデル事業に取り組んでみて～

伊勢市環境部資源循環課

課長 阪本 保夫 さん



○事業発案の経緯や取組のきっかけを教えてください。

伊勢市では、平成 13 年にレジ袋削減を目的にマイバッグの全戸配布を行いました。また、平成 15 年から可燃ごみの指定袋制度の導入やプラスチック製容器包装・ペットボトルのステーション方式でのネット袋回収を導入したことで、レジ袋ではごみを出すことができない環境が整ってきました。

このような中、市長からレジ袋削減・マイバッグ持参運動の強化について指示があったのをきっかけに、市民団体・事業者・行政によるプロジェクトが立ち上がり、レジ袋大幅削減の取り組みについての話し合いのテーブルができあがり、行動を開始することになりました。

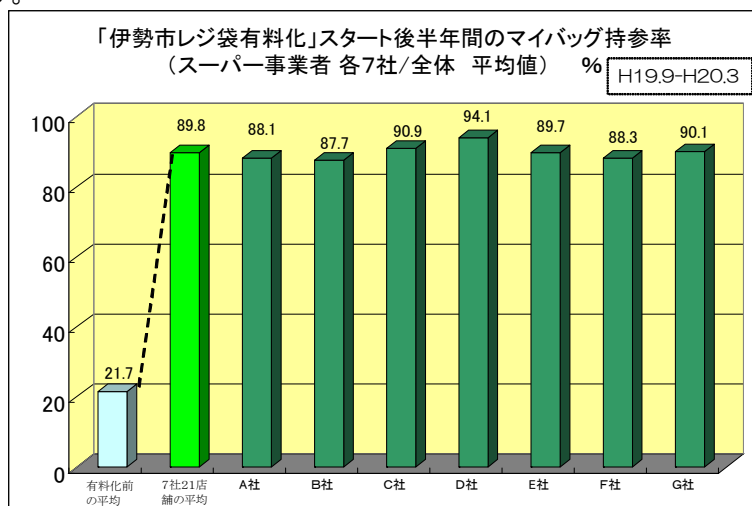
○実際に取り組まれた中で、一番ご苦労されたことはなんですか。

検討会が立ち上がり、比較的早い段階で、レジ袋有料化開始日（平成 19 年 9 月 21 日）が設定されましたので、時間的制約により様々な業務の対応が大変でした。

しかし、今振り返ってみますと、明確なゴールを早い段階で示したことにより、実現した部分もあったのではないかと思います。

○事業の一番の成果は何だと思われますか。

レジ袋辞退率が 90%前後の高水準で推移していることは、一つの成果だとは思いますが、それ以上に、有料化をしていない店舗でも、マイバッグを持参したり、レジ袋をもらわない方が増えており、本来の目的である、レジ袋の削減を通じた、ごみ減量の意識や行動が、広く市民の方々に浸透してきていることが大きな成果ではないかと思います。



○今後に向けての課題や展望を聞かせてください。

平成 20 年 9 月から、一部ドラッグストアでのレジ袋有料化の取り組みが始まりました。今後も、業種の拡大を図っていきたいと考えています。また、レジ袋収益金を活用し、新たな環境活動の展開を図ることで、今回の取り組みの目的であります、地球温暖化防止・循環型社会の形成に向けて活動していきます。

TOPICS 市民団体メンバーの声

当初、このような形で有料化が実現すると思いませんでした。思い出すのは、クーラーの効かない部屋で窓を開け放して、虫と暑さと戦いながら会議をしたこと。夜中までカンカンガクガク、みんなが前向きに言いたいことを言い合ったこと。事業者と市民と行政が、一つの方向に向かって、本当に頑張りました。そして、事業者の方の勇氣に感謝します。

レジ袋有料化を通して、みんなが環境に配慮する市になるよう、これからも力を合わせて頑張っていきたいと思っています。



ハーモいせ
牛江 康子さん

○事業の目的と概要

リサイクルの一層の進展、最終埋立処分ごみ量の削減をめざし、従来埋め立てられていたガラス・陶磁器くずを新たに分別することに併せて、自治会単位でのステーション整備を行い、地域住民による、自律的な、資源ごみも含めた回収・処理の仕組みを構築します。

○事業の成果

- ・ガラス類(ガラス食器・板ガラス等)、陶磁器類(茶碗・湯のみ等)の分別回収・リサイクルを開始したことにより、最終埋立処分ごみ量が減少しています。H19 年度の不燃ごみ破碎残さ埋立量は、対前年度▲63%と、大幅に削減されました。
- ・ガラス類・陶磁器類それぞれに処理ルートを確認したことにより、路盤材・ブロック等へ加工される安定的なリサイクルが実現されています。
- ・資源ごみの売却益が自治会の収入になることが、自治会による安定的・自律的なステーションの管理運営に寄与しています。
- ・今後の市内他地域へのステーション設置拡大に向けて、19 年度に収集の仕組みが整備された2箇所の事例が、良いモデルケースとなりました。

○「ガラス類」：ガラス食器・板ガラス等
○「陶磁器類」：茶碗・湯呑み等



◇市が処理ルートを確認
◇市が回収 → リサイクル処理へ

○その他資源ごみ（新聞、アルミ缶等）



◇市が売却ルート进行调整支援
◇売却益は自治会の収益に

○今後に向けた課題や取組

- ・今後、市域での取組拡大を進めるとともに、地域でごみについて話し合うことをひとつの足がかりに、ステーション回収の仕組みが、地域の諸課題の解決を図れるような、コミュニティ形成の場として活用されるよう検討します。
- ・収集システム変更に伴う高齢・障がい者等の方々への個別対応や、経済変動の影響による資源ごみ売却収入の増減を見込んだ支援制度を検討するなど、当ステーション方式の安定的・継続的な運営を確立する必要があります。



辻久留台ステーション↑
資源物分別回収表示



← ↑ 上区ステーション
自治会の方々による作業

「生の声」～モデル事業に取り組んでみて～

伊勢市環境部資源循環課

主査 野田 亨 さん



○事業発案の経緯や取組のきっかけを教えてください。

平成19年度からスタートしたガラス類（ガラス食器・板ガラス）・陶磁器類（茶碗・湯のみ）の分別回収の徹底と各小学校区に設置を行っている「拠点資源回収ステーション設置事業」の問題点を整理したことにより、行政収集と自治会収集（再生資源売払い）を融合させた、地域と協働で進める資源回収ルートの確立を目指して「地域資源回収ステーション設置事業」をスタートさせることとしました。

○実際に取り組まれた中で、一番ご苦労されたことはなんですか。

協働事業は、住民の方々の理解を得ながら行政と地域がそれぞれの役割を担い、協力・信頼しあい進めていくことが重要です。この事業は自治会の積極的な関わりが求められる取組であり、自治会をはじめ住民の方々との合意形成が重要であると考えています。

○事業の一番の成果は何だと思われますか。

ごみの分別指導・保管庫の整理整頓、ごみ出しに来た人も含めて、みなさん和気あいあいとして笑顔で活動されていたことでした。同じ目線同士の方々が運営していることで、分別を「やらされている」のではなく「分別しなくちゃ感」が育まれて、住民のみなさんの分別意識も高まり地域のコミュニティ形成の場所として活用されています。

○今後に向けての課題や展望を聞かせてください。

集約化に伴う弊害をなくすために生活弱者の方々のごみ出し支援策等の確立が必要であり、事業の継続性といった観点から、自治会組織の後継者の育成も重要であると思われます。この事業をきっかけにして、自治会がもっと元気になり、地域コミュニケーション形成の場として、地域資源回収ステーションが拡充していけばこんなに嬉しいことはありません。

TOPICS 自治会メンバーの声

区民からの不評覚悟でのスタートでしたが、集積所では分別マナーの低さや通行者のポイ捨て等、現状の改善を図るには「有人回収ステーション」しかないと考えました。また、市担当者から「ごみ扱いの発想を資源のリサイクルに」と理に叶った説明と将来の展望を見据えた説明に、自治会としても、区民に「ステーション」をコミュニケーションの場（井戸端会議）として運用することとしました。

9月からは、250 戸区民全員参加の管理者当番制をスタートしています。実施にあたり区民からの苦情もなく、ボランティアも増え、秋のさわやかな追い風と感謝しています。



西豊浜町上区自治会
副区長 中西 昇さん

津市 エコパートナー・ネットワーク推進事業

○事業の目的と概要

市民が自発的にごみ減量や環境について考え行動することをめざし、市民が運営主体となる活動センターをごみ焼却施設内に整備し、子ども等への環境学習の場とするとともに、情報発信・活動拠点とすることで、ごみゼロ社会をめざす人材づくりとネットワーク化を進めます。

○事業の成果

- ・ 市民団体が運営する市民エコ活動センターがごみ焼却施設内に整備され、ごみ処理を間近に体感できる情報発信・活動の拠点、学習の場となっています。
- ・ エコ活動リーダー養成に向けた情報収集やエコ講座の出張開催など、市民の自主的な環境活動を促進するための取組や啓発活動が行われています。
- ・ ごみ減量化・エコ活動を担う人材や活動団体のネットワーク化に向けた基盤が整い、今後の進展が期待されます。

○今後に向けた課題や取組

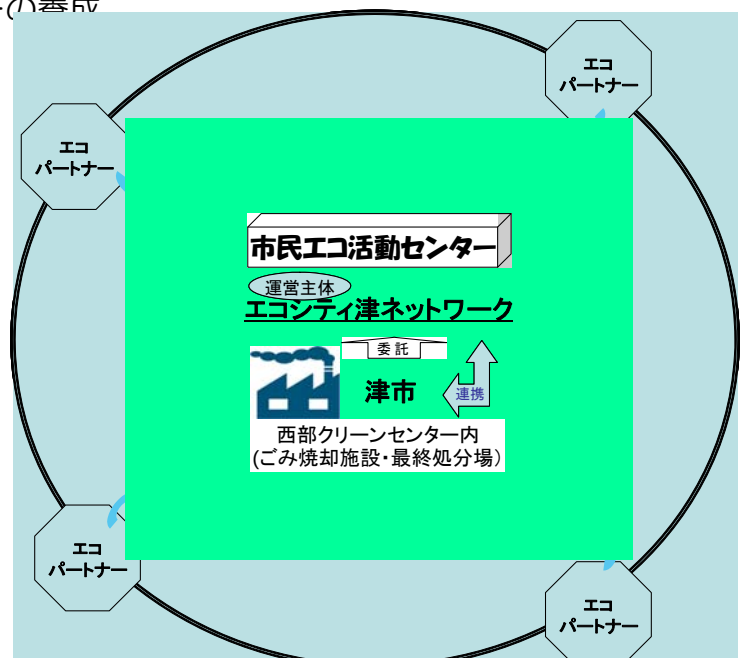
- ・ 市民エコ活動センターを拠点に、運営団体・市民・市の連携のもと、地域でごみ減量化・エコ活動に取り組む個人や団体等の活動が促進され、担い手であるエコパートナーのネットワーク拡大が一層進展することが求められます。
- ・ センターの立地特性を生かした施設見学・体験型講座や環境学習等の実施、地域の学校や自治会等で活用されるエコグッズの開発・貸出、ごみ減量化・エコ活動に取り組む個人や団体の情報データベース(サポートバンク)の整備を進め、地域のエコ活動リーダーの養成とネットワーク化を推進します。



↑ 津市西部クリーンセンター



←センター内展示
↓ 津地域ごみゼロ
交流会(H20.3.1)
オープニングイベント



「生の声」～モデル事業に取り組んでみて～

津市環境部環境

政策課調整・企画管理担当主幹 蓼田 博之 さん



○事業発案の経緯や取組のきっかけを教えてください。

「安全・安心」「人づくり・市民参加・協働」「活力」の3つの視点から元気づくり事業に取り組んでいる本市と、広く市民の皆さんへのごみの減量をはじめとする様々な環境・エコに関する啓発や情報発信等の活動を行うことを事業目的のひとつとしている市民団体「エコシティ津ネットワーク」の活動とを結びつけられると面白いのでは、という発想にはじまり、提案させていただいたことが、事業の取組のきっかけとなりました。

○実際に取り組まれた中で、一番ご苦労されたことはなんですか。

どのような構想、どのようなメンバーで、準備・立ち上げを進めるのか、またどのようにして市民の皆さんに働きかけていくのか、大阪の門真市など、先進地の視察を重ねたりする中で、活動拠点の整備構想を練るにも様々な意見が出され、予想以上に時間も労力もかかったと思いますし、エコシティ津の皆さんにもご苦労をいただきました。

そして、長年空き部屋となっていた焼却施設内のスペースが、市民のみなさんの自発的な掃除作業からはじまった手づくりの事業で、心地よい汗とともにきれいになっていく様子も、苦労であり、また楽しさであったかなと思います。

○事業の一番の成果は何だと思われますか。

他の自治体にも余り例がないと思われます、ごみ焼却施設内に、市民のみなさんが自発的に環境について活動できる拠点としての市民エコ活動センターが整備されたことで、人づくり、ネットワークづくりを展開するための基礎が築かれたことです。

○今後に向けての課題や展望を聞かせてください。

センターの立地の特性を生かした、「生きた」環境教育・活動を発信・展開し、一人ひとりが取り組む自発的な環境活動が、子どもから高齢者の方まですべての市民・市域にネットワーク化し、広がっていくことを目指していきたいと考えています。

TOPICS 市民団体メンバーの声

長年の夢であった環境活動の拠点ができ、ワクワクしながらスタッフをお引き受けしました。埋め立て処分場に隣接したごみ焼却施設の中にあり、またその周囲は自然が一杯で、環境の問題を考えるには最適です。できることから一つずつ、ネットワークづくりに向けた活動を実行し、顔の見える人の輪を育て、誰もが気軽に集まりやすい場所にしていきたいと思います。



エコシティ津ネットワーク
荒川さん 北村さん 佐藤さん

○その他、県として主に取り組んだこと

県民、市町、事業者、NPO 等との協働の取組

□行政連絡会議

県内7地域（桑名、四日市、津、松阪、伊勢、伊賀、尾鷲・熊野）ごとに、19年7月と20年2月の2回、市町（一部事務組合及び広域連合を含む）、県の担当者が参加して、プラン推進の取組についての情報共有や意見交換を行いました。

□生ごみ堆肥化講座

4自治体（津市・玉城町・大台町・伊勢広域環境組合）合同にて、職員7名を対象に、衣装ケースを使用した堆肥化の一次・二次処理についての説明・体験講座を実施し、大台町の二次処理施設を見学しました。

（H19.11・於：グリーンプラザおおだい）



堆肥化メカニズムの講義



一次処理実演



大台町の堆肥化二次処理施設見学

□地域ごみゼロ推進交流会の開催

地域のごみ減量化取組の活性化をめざし、県内8地域で、のべ11回開催し、住民やNPO団体等の皆さんで、地域での取組の発表・先進事例の紹介・意見交換等の情報交流や、見学会、有識者の講演会などを行いました。

地域	概 要	開催日	参加数
桑名	リサイクル等取組見学会（有）酵素の里、（有）三功、アピタ松阪三雲店	H20.3.2	31名
四日市	講演「廃食用油リサイクル」、処理施設（諸岡建設㈱）見学、意見交換	H20.3.28	25名
津	講演「廃食用油のBDF化」、ごみ減量フリートーク	H20.3.1	38名
松阪	くらしの中の風呂敷活用講座、生ごみ堆肥での栽培野菜展示 くらしの中の風呂敷活用講座	H19.5.27 H19.7.26	40名 27名
伊賀	ごみのゆくえ探検隊（伊賀市リサイクル施設・三重中央開発㈱）見学、Eコッキング ストップ！レジ袋 ～マイバッグ持参シンポジウム～	H19.8.23 H19.10.6	27名 86名
伊勢	講演・事例紹介・意見交換「レジ袋削減キャンペーン運動の取組」 報告・交流会「レジ袋削減・マイバッグ持参」「鳥羽リサイクルパーク」 講演「ごみから地球を考える」	H19.11.18 H20.1.26 //	30名 44名 80名
尾鷲	施設見学（県環境学習情報センター）、クイズ・買い物ゲーム体験	H20.3.9	29名
熊野	体験講座「布ぞうりをつくろう！古布でリサイクル」、事例発表	H20.3.16	21名

地域交流会の様様



講演会（伊勢）



リサイクル見学会（桑名）



廃食油リサイクル見学（四日市）



布ぞうり講座（熊野）



風呂敷活用講座（松阪）



ごみのゆくえ探検隊（伊賀）



資源循環クイズ・買い物ゲーム（尾鷲）

TOPICS ～交流会参加者の声～

四日市にある県の環境学習情報センターは、自然エネルギーの利用をはじめ、様々な工夫がされており、職員の方のお話やお買物体験では、楽しみながら、ごみの減量について学ばせていただきました。

環境への取り組みは、一人ひとりが継続して実践していく事が大切ですが、今回改めて感じたことは、日頃から婦人会活動をご支援下さる地域の方々との温かいつながりです。

忙しさ故に環境のことからレールを踏み外しそうになると、熱心な仲間や県の方からお声がかかり軌道修正されてきました。みんなで関わり進めているから続けられることを再認識した次第です。

今後も見学で得た貴重な体験を活かし、“手をつなぎ守る環境の輪”精神が若い人達にも根付き、会活動が継続される様、出来る範囲で参加していきたいと思っています。



尾鷲交流会ご参加
平山 公子さん
（尾鷲市ご在住）
写真前列左からお二人目

三木里婦人会を中心とする交流会ご参加の皆さん

〇ごみゼロセミナーの開催

ごみゼロプラン推進に向けた県民や事業者の参画、ごみ減量化の取組を促進・活性化させるために開催し、プランのPRと合わせて、ごみの減量化に関する講演や県内外の取組事例の発表、意見交換等を行いました。

〇ごみゼロ事業者・県民セミナー 開催日：平成 20 年 2 月 20 日 参加者：130 名

～金沢 53 ダイエットネットワークの活動、伊勢市レジ袋有料化の取組を通じて考える、事業者・住民・NPO 団体・行政協働での事業系ごみ減量～

講演「事業系ごみ減量に向けた現状と課題」

～金沢 53 ダイエットネットワークの取組から～ 佐無田 光 金沢大学准教授

事例発表「伊勢市レジ袋有料化の取組」～事業者・市民・NPO・行政協働でのレジ袋削減～

株式会社ぎゅーとら 高橋 美貴 氏 伊勢市資源循環課 大野 安道 氏



佐無田 金沢大准教授の講演



伊勢市レジ袋有料化の取組には
沢山の質問がありました。



活発な意見交換が行われました

〇ごみゼロ県民セミナー 開催日：平成 20 年 3 月 1 日 参加者：135 名

講演「ごみを出さない暮らしのコツ」 講師：漫画家 赤星 たみこ 氏

事例発表「鳥羽リサイクルパークの取り組み」 鳥羽市環境課 中村 孝 氏

「町民参画による町ごみ処理基本計画づくり」（東員町）

NPO 生ごみリサイクル思考の会 代表 川島 浩 氏



赤星たみこさんの講演
ご夫妻でお話いただきました



鳥羽リサイクルパークの取組紹介



東員町ごみゼロプランの紹介

「ごみゼロフォーラム」～脇役はいない！みんなでつくる“ごみゼロ社会”～

H19-22 年度の「ごみゼロセカンドステージ」のキックオフイベントとして開催しました。

開催日：平成 19 年 10 月 20 日(土) 場所：県庁講堂 参加者：224 名

○ごみゼロキャラクター「ゼロ吉」デザイン&愛称 表彰式

★デザイナー：石塚康人さん

★名付け親：松本梨鼓さん

知事表彰させていただきました。



○ごみゼロバス 除幕・発車式

◇大川幼稚園の可愛い園児
鼓笛隊の皆さんが花を添
えてくれました。



津市内を中心に走行中です

○パネルディスカッション「脇役はいない！みんなでつくる“ごみゼロ社会”」



■パネリスト

- ・松田 美夜子 氏(生活環境評論家、内閣府原子力委員会委員)
- ・崎田 裕子 氏(ジャーナリスト、環境カウンセラー)
- ・高屋 充子 氏(きれいな伊勢志摩づくり連絡会議会長)
- ・木田 久主一 氏(鳥羽市長)
- ・野呂 昭彦 三重県知事

口各パネリストそれぞれの立場からの意見や取組事例等の紹介をいただくとともに、ごみ有料化や観光とリンクしたごみ行政の展開など、三重県への提言もいただきました。

○環境落語「笑いで身につくエコライフ」+「簡単なマイバッグのこしらえ方」

◎林家時蔵師匠の軽妙な語りと風呂敷使い方の実演でした。



会場内においては、ごみゼロキャラクター応募デザインの全 935 作品と風呂敷包みを展示させていただきました。



沢山のご応募をいただきました

色々な包み方をご紹介します



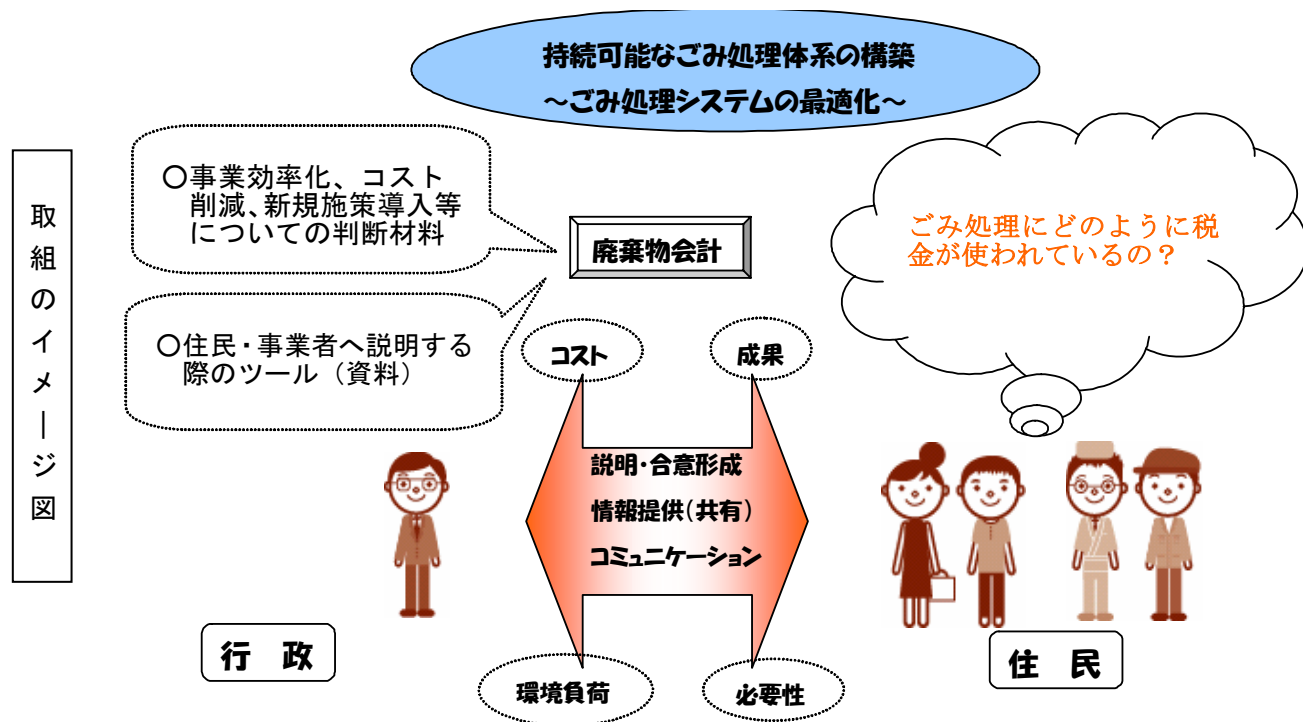
□廃棄物会計等を用いた、市町ごみ処理システムの最適化の取組

【事業の趣旨】

市町のごみ処理システムの費用や環境への影響等について、他市町との比較や、住民の方々に分かりやすく説明するためのツール（資料）として、廃棄物会計を活用し、ごみ処理システムの効率化や改善をめざします。

○廃棄物会計 → 市町のごみ処理を、“**かかる費用**”の視点から分析・評価する

○ごみ処理カルテ → 市町のごみ処理システムの“**強み・弱み**”を明らかにし、より効率的なごみ処理事業の運営を促進する。



○廃棄物会計のツールのイメージ

原価計算書（一部）のイメージ・・・ごみ品目（計 20 品目）ごとの処理にかかるコスト単価を表示

	① 燃やすごみ	② 燃やさないごみ	③ 粗大ごみ	⑩ ペットボトル	⑳ その他のごみ	合計
<原価>						
収集運搬部門原価 (円/t-収集運搬量)	14,795	8,458	9,815	63,953	-	14,609
中間処理部門原価 (円/t-中間処理投入量)	15,060	-	15,060	-	-	15,060
最終処分部門原価 (円/t-最終処分投入量)	-	13,418	13,254	-	-	13,417
資源化部門原価 (円/t-資源化投入量)	15,115	-	-	-	-	11,987

可燃、不燃、粗大やペットボトル等の資源ごみなど、ごみ 20 品目ごとに、処理の各工程・部門(収集運搬・中間処理・最終処分・資源化)でかかる費用を計算し、1 トンあたりの処理費用(上表での原価)を算出します。

【事業内容や成果など】

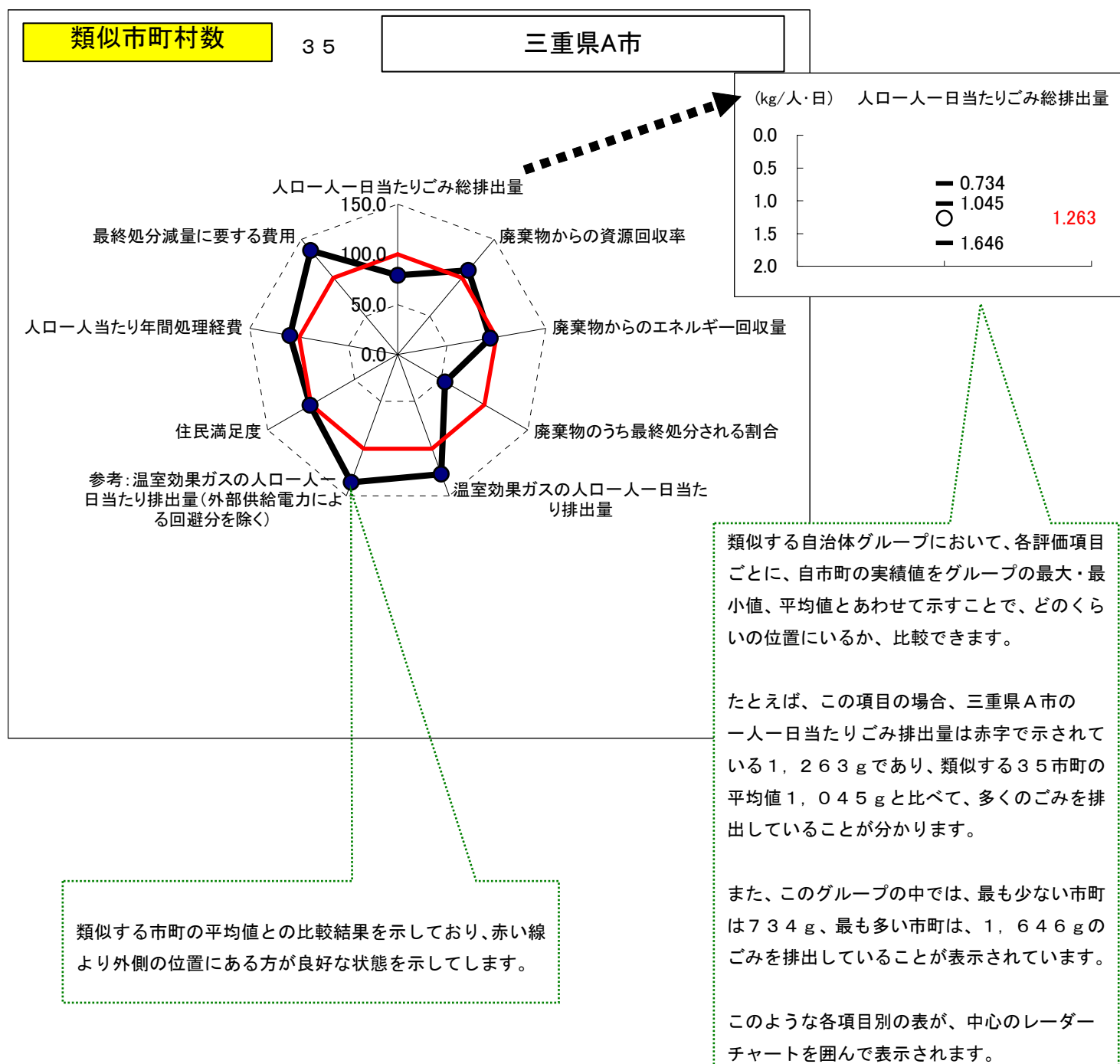
廃棄物会計の活用先進的に取り組んでいる自治体の事例について、市町へ情報提供したり、市町のデータ入力作業の支援を進めました。現在、県内 13 市町で廃棄物会計が導入されており、その活用への理解が広がっています。

【今後の課題や展開について】

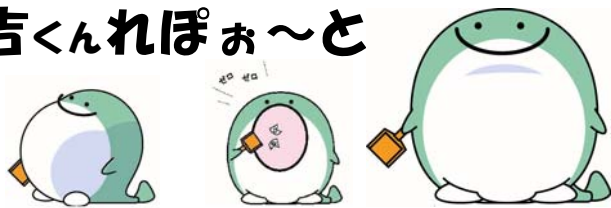
- ・引き続き廃棄物会計の活用事例の情報提供や、入力作業の支援などを通じて、県内市町における廃棄物会計の導入が促進されるよう取り組みます。
- ・市町の協力のもと、分かりやすさや利便性等を考慮した市町ごみ処理カルテの試行版を作成します。

○ごみ処理カルテのツールのイメージ

廃棄物会計によるコスト情報などを活用した一般廃棄物処理システム比較分析表
(標準的な項目にかかる評価結果を示します)



ゼロくんれぽお〜と



今回は、ごみゼロの活動をしてきている、県内の小中学生・高校生の仲間にお話を聞いてみるゼロ〜

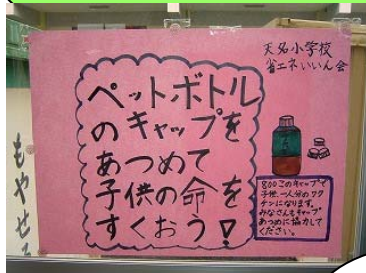
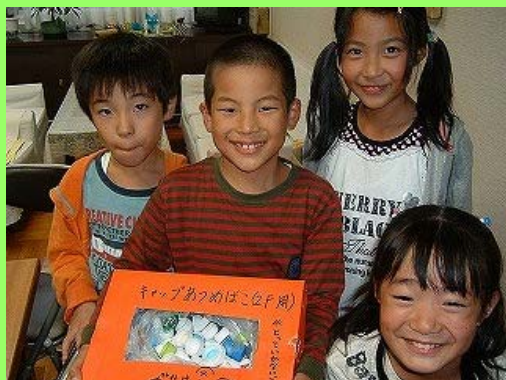
○まずは、自己紹介をしてほしいゼロ。

鈴鹿市立天名(あまな)小学校です。
わたしたちは、3年生の「省エネ委員会」のメンバー4人です。
学校みんな 94 人で取り組んでいることを紹介します。



○みんなは、学校ではどんなことをやっているゼロか？

「エコキャップ運動」をやっています。
1年くらい前、病気に苦しんでいる途上国の子どもたちに、ワクチンを贈るという「エコキャップ」の新聞記事を読んで、天名小のみんなでやろう！と、先生に提案して始めました。
ペットボトルのキャップ 800 個を集めると、1 人分のワクチン 1 本が買えるお金(20 円)にかかります。これまでに約 38 人分をまかなえる、30560 個を集めてきました(H20.9.12 現在)。



校長先生のお部屋の前には、グラフもはられているゼロ。
ほくも、エコキャップのことは聞いたことはあったけど、こんなに沢山集めている仲間が、三重県にもいるんだゼロ！
みんなの家族やご近所に住む人、学校の周りの人たちも持ってきてくれるから、こんなに沢山集まるんだゼロ〜
よし、今日からほくもキャップを集めるゼロ！

1 袋に
4000 個、
4 袋で
16000 個
(20 人分)



○ほかにも、なにかあれば教えてほしいゼロ



工作の時間に使う色々な材料は、みんなが家から持ってきて、ろうかに置いてある分別ロッカーに入れて保管しています。

リボン、紙コップや紙のお皿、卵のパック、プチプチ梱包材、トイレトペーパーの芯、プリンやヨーグルトの空き箱とか、42種類の色々な材料を集めています。

こうすれば、捨てずに、みんなで集めたものを、みんなで有効に使うことができます。



見て、見て！



環境・エコのことを考えて、かべ新聞を作ってはりだしています。ゼロ吉の記事もあるよ～

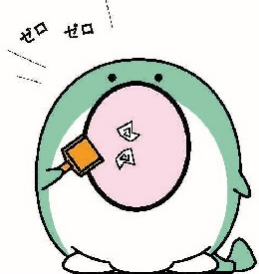
うわぁ、ほくのことも
載せてくれているゼロ～
うれしいゼロよ～～



わたしよりもちょっとだけ年上の
お兄ちゃん、お姉ちゃんも、
すごい頑張ってるんだわぁ～
ゼロ助にいちゃん、わたしたちも、
頑張ろうね～♪

うん！





続いては、伊勢市にある、五十鈴中学校の
僕より少し年上のみんなに登場してもらおうぜよ～

○まずは、自己紹介をしてほしいぜよ。

伊勢市立五十鈴中学校です。
環境について「気にする」ことから始めています。



○みんなは、学校ではどんなことをやっているぜよか？

全校一斉のアルミ缶回収の日を月1回決めて、その日は生徒全員が、それぞれの家でアルミ缶を洗浄して、つぶしたものを持って登校します。
各クラスごとに集めて、申告された個数をまとめます。それから、玄関まで運んで、専用の回収袋に移しかえ、生徒会が各クラスから出された個数の集計をします。



アルミ缶の回収風景

集められたアルミ缶は、市内にある回収・リサイクル業者さんが引き取りに来てくれます。
アルミ缶の売却代金は、障がい者施設など、生徒会で寄付先を決めて、お渡ししています。

昼食時に希望者が注文した牛乳は、飲んだ後に紙パックを開いて洗浄し、決めた手順で折りたたんでまとめています。
(トイレットペーパー等にリサイクルされます。)

～少しでもリサイクルにつながるよう、心がけています～



へえ～ みんな頑張ってるぜよ～
回収数グラフを各教室に貼り出したり、その年に一番多く集めてくれたクラスや、生徒さんには、感謝状も贈られてるんだぜよね～
このときばかりは？晩酌で缶ビールを飲むお父さんにも感謝ぜよ♪



教室のごみは、燃えるごみとプラスチックのごみに分別して、集めています。



ごみ箱の内袋にして
いるビニール袋は、破
けるまで何度も再利
用して、節約に努めて
います。



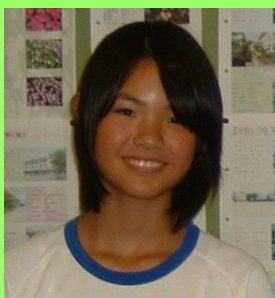
学校では、みんな自分の水筒とか、飲み終わった
ペットボトルに入れたお茶を飲んでいきます。
ごく自然に、全校生徒がやっています。
教室のごみ箱や校内に、ペットボトルが捨てられて
いるのは見たことがないです。

嬉しいな♪僕もマイ
ボトルもってるよ～



○普段の生活で気をつけていることはあるセロ？

伊勢市では、昨年9月から、市内の全てのスーパーでレジ袋が有料になりました。平成 13 年には、市からマイバッグが配られていましたが、忘れて買い物に行っても、レジ袋は「タダでもらえて当たり前」で、余り気にしていませんでした。それが、5円を払わなければいけないという気持ちから、資源を無駄にしていたんだ、「もったいない」という気づきにつながり、今では伊勢市の90%以上の人がお買い物にはマイバッグなどを持って行って、レジ袋をもらうのを断っています。今は「マイバッグを持っていくのが当たり前」、本当にすごい変化で驚いています。私たち一人ひとりの力はほんの小さな力だけど、一人ひとりが少しずつでもエコを意識して行動へ移していけば、とても大きな力になることを感じています。



“お買い物にはマイバッグ”
日本では一人が一日に約1枚は
使っている計算になるレジ袋。
伊勢市では「もらわない」人の
ほうが断然多いのね～♪





最後は、僕の着ぐるみを
作ってくれた、
桑名北高校のお姉さん、
お兄さんたちだゼロよ～



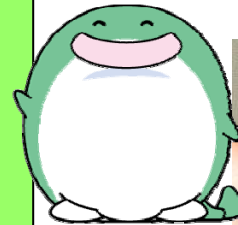
三重県立桑名北高等学校の生徒会メンバーです。
私たちが校内で取り組んでいることを紹介します。

○みんなは、学校ではどんなことをやっているゼロか？

校内のジュース自動販売機の横には、飲んだ後のアルミ缶を
圧縮処理する機械があって、そこに空きアルミ缶を投入すると、
ガチャガチャと圧縮されて、10円が戻ってきます。
アルミ缶のリサイクルにもつながって、10円が返ってくる！



おっ、いい笑顔だゼロ♪
10円戻ってきてるね～



もちろん、ペットボトルも、教室のごみ箱できちんと分別しています。外にある集積所では、
環境委員の人たちが中心になって、1週間交代で担当クラスの間みんなも協力して、ラベルはがしや
キャップはずし、洗浄、分別仕分け作業などを行っています。



生徒会長さんは、お弁当にマイボトルだね♪
ポーズもキマってるなあ～



○みんなは、秋の文化祭でも色々取り組んだって聞いたゼロよ～

「ビューティフル・マジック」という、クラス対抗の環境コンテストの結果を文化祭で発表しています。また、模擬店で食べ物や飲み物を出すときには、みんな「マイはし」「マイ皿」「マイカップ」を持ってきたり、デポジットでリユース食器の貸し出しと回収を行って、ごみになるべく出ないようにしています。

このことをスタートした文化祭から、大幅にごみが減って、終わった後に来ていただくごみ収集車が、それまで3台だったのが1台になっています。



自分のお箸とかを、みんなが持って来てくれると、本当に沢山ごみが減るゼロ～



○僕の着ぐるみを作ってくれてありがとうゼロ～～♪

「そういんエコフェスタ2008」 主催：そういんエコフェスタ実行委員会

日時：平成20年9月23日(火・祝) 場所：東員町中部公園



製作総指揮：伊藤三洋先生

スタッフ：桑北口ハス試行会メンバー5名

構想3か月 製作日数3日 材料カーテン

沢山の子どもたちに囲まれて、楽しく♪、にぎやかに、着ぐるみデビュー！！

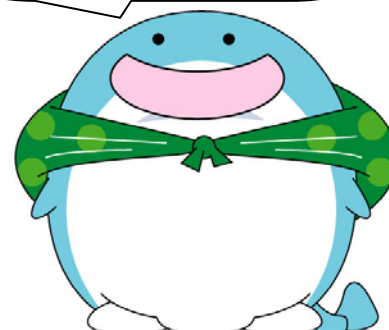


ごみゼロクイズや、僕たち家族のめり絵を、沢山のお友達が楽しんでくれたゼロ～



モリゾー、キッコロ、ゼロ吉 夢のコラボ

ふろしきの包み方を頑張って覚えてくれているね～





DVD(VHSビデオ)をお貸ししています！

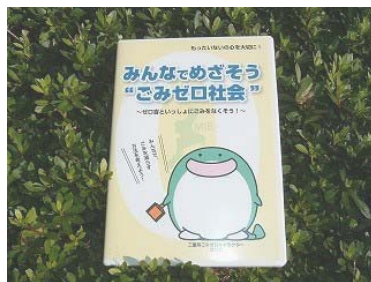
小学生の皆さんの環境学習に是非お使い下さい！
学校で、ご家族で、地域の子ども会で、etc....
皆さんお揃いでご覧いただけます！！
ゼロ吉ファミリー総出演のごみゼロ啓発DVD

「みんなでめざそう “ごみゼロ社会”
～ゼロ吉と一緒にごみをなくそう～」

詳細はごみゼロ推進室までお問い合わせ下さい。

＜内容＞

- ・ごみが減らないとどうなるの？
- ・どんな取り組みがあるの？
- ・わたしたちにできることってなにか？



ごみゼロホームページからもご覧いただくことができます。

こちらから→ <http://www.eco.pref.mie.jp/gomizero/09/zero-dvd.htm>



2008 年（平成 20 年）度版

ごみゼロレポート



～2007 年（平成 19 年）度に県が取り組んだこと～

平成20年11月

三重県環境森林部ごみゼロ推進室

〒514-8570 三重県津市広明町 13

TEL：059-224-3126 FAX：059-229-1016

Mail：gomizero@pref.mie.jp

環境森林部ホームページ

<http://www.eco.pref.mie.jp/>

ごみゼロホームページ

<http://www.eco.pref.mie.jp/gomizero/>

- ・「ゼロ吉」とファミリーのキャラクターご使用
- ・ごみゼロメールマガジンの配信ご登録はこちらからどうぞ！

